連携だめ



当院は社会福祉法人として、医療以外の活動も積極的に行っています。 今回の連携だよりでは、当院の成り立ちや取り組みについてご紹介させていただきます。

済生会・当院の活動について

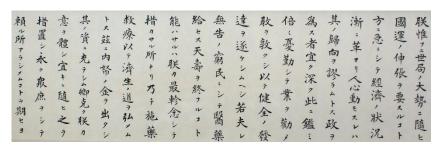


「済生会」は、当院をはじめ全国99の病院・診療所と、280の福祉施設などを運営し、総計約62,000人が働いている日本最大の社会福祉法人です。明治44年2月11日、明治天皇は、時の内閣総理大臣・桂太郎を御前に召され、「生活苦で医療を受けることができずに困っている人たちを施薬救療(無償で治療をすること)によって救おう」と「済生勅語」を発し、お手元金150万円を下賜されました。

桂総理は早速準備に取り掛かり、同年5月30日、天皇陛下からいただいたという意味の「恩賜財団済生会」の創立となりました。



明治天皇



済生勅語

生活困窮者支援の積極的推進【なでしこプラン】

済生会設立の目的は、上記の通り、生活に困っている人を医療で助けることです。現在、全国の済生会が一丸となって、医療・福祉サービスに恵まれないすべての人々に手を差し伸べるという創立の精神のもと、生活困窮者支援事業「なでしこプラン」を積極的に展開しています。



当院での取り組み

- ●生活に困窮する在留外国人、更生保護施設入所者、 薬物依存症者回復施設入所者への無料健診事業
- ●性暴力被害者、虐待・DV被害者(児)、ホームレスや低所得者、 自殺未遂者等への支援
- ●子どもの貧困対策・孤立防止プロジェクトへの参加
- ●生活困窮者への就労支援、治療と仕事の両立支援など



薬物依存症者更生施設入所者の無料の健診事業を実施



5月14日、特定非営利活動法人 栃木DARC (ダルク) に入所中の生活困窮者を対象に、今年度1回目の無料の健診事業を実施しました。ダルクは、薬物依存症者とその家族に対して回復支援事業を行うと共に、地域の人々に対し、薬物依存症に関する普及啓発事業を行い、すべての人々が健やかに暮らせる地域づくりに寄与することを目的に活動している団体です。

栃木県内には、ダルクの施設が5ヶ所あり61名が来院しました。身長・体重・血圧・視力・聴力・腹囲・肥満度を測定したほか、採血・採尿・心電図・胸部 X 線も実施し、内科医が診察を行いました。

当院は平成21年度から宇都宮保護観察所や栃木県就労支援事業者機構と継続して連携をしています。

🥋 子どもの貧困や孤立に関する基調講演とシンポジウムを開催



5月26日、当院のみやのわホールにおいて、子どもの貧困や孤立に関する講演会とシンポジウムを開催しました。

基調講演では、社会活動家で東京大学特任教授の湯浅誠先生により、「一歩でも進める地域的養護と子どもの貧困撃退」について講演を頂きました。

シンポジウムは、当院の荻津守事務副部長(MSW)が司会進行を務め「栃木の社会的養護20年、これからの地域養護20年」をテーマとして、栃木県内の福祉実践活動家5名のシンポジストによる講演を頂きました。

関係機関や地域住民など150名が参加し活発な意見交換が行われました。

🎥 生活に困窮する外国人のための医療相談会を実施



10月20日、当院の健診センターにおいて、「生活に困窮する 外国人のための医療相談会」を開催しました。医療相談会は、 NPO法人「北関東医療相談会」と共催し、なでしこプランと して毎年継続的に開催しています。今回は、5県から60名と多 数の受診があり、開催の意義を痛感しています。

相談は、病気の不安や経済など医療・福祉の問題から在留資格に関する法律問題やコミュニケーションに関する問題まで多種多様となっており、医療ソーシャルワーカーと弁護士が複数で対応しました。

また、健診の結果は、11月16日当センターで行った結果報告 会で母国語で説明しました。

🤷 台風19号による被害者支援のための炊き出しを実施



10月23日、台風19号による浸水被害の被害者を支援するため、 宇都宮市千波町にて炊き出しを行いました。病院職員20名が協力し、パスタやポトフなど150食を提供しました。

宇都宮地区では、被災者を支援しようとNPO法人「とちぎボランティアネットワーク」により「炊き出しセンター」を10月16日に発足。炊き出し場所を用意し、活動するボランティアや食事の提供できる団体や企業や飲食店に呼びかけていきます。そのため、当院が先行し開催することにより、地元紙で報道して頂き同センターの活動を広く周知しました。